

ツバメの巣にEGGFは何ぞ?

高級食材として知られるツバメの巣には、成長因子のEGGF(上皮細胞成長因子)が含まれるといわれる。では、実際にどれくらいの量が含有しているのか。EGGF等の成長因子を配合した化粧品や、サプリメントの普及啓発などを目的とする、NPO日本EGGF協会(理事長・辻大作氏)が、ツバメの巣に含まれるEGGF含有量を独自に調べ、同協会のホームページで報告している。

同協会の調べによると、赤色ツバメの巣では一ヶ当たり六五三・一ギタのEGGFが検出でき、白色ツバメの巣では一ヶ当たり二九九・八ギタだったとし、赤色ツバメの巣の方が白色に比べてEGGF含有

日本EGGF協会が独自検査

量は高いことが分かった一方で、シロップ漬けにしたツバメの巣では検出できなかったという。

また、計測誤差を考慮に入れ、変動係数(この場合は一・五二八)を掛けた場合のEGGF含有量は、赤色ツバメ

の巣で九九八・一ギタ、白色で四五八・一ギタだったとしている。なお、ギタは一兆分の一ヶに相当する。

同協会によれば、EGGFの定量分析方法は、抗体や抗原の濃度を定量する際に用いられるELISA法によるもの

で、EGGFの検査試薬としてR&D SYSTEMS社製のHumanEGGFを使用。また、試験はEGGFの製造にも一部関与している中国の研

究施設で実施したという。

同協会では、「検査内容は、ヒトEGGFと一致するタンパ

ク質量を測定したもので、ツバメは哺乳類ではなく鳥類であることから、ツバメの巣にはヒトEGGFと一致しない他のEGGFが含有されていると

推測される」(辻理事長)とコメント。

また、シロップ漬けツバメの巣でEGGFを検出できなかった理由について「加工時に殺菌消毒等のため高温過熱したことで変質したのかも知れない。もしくはツバメの巣が最初から含有していなかったのではないか」という。

同協会では、「ブラセンタも成長因子が含まれている」として知られるが、エキス原料としてはその含有量が明確でない場合も多い。今後調べていきたい(同)と話している。